

好きなことを仕事にするのは、実は楽しいことばかりじゃない。
けれど、情熱を持って本気で取り組んだら仕事は絶対おもしろい。
`好き、が仕事になるってきっとそういうこと。
`好き、の気持ちがあれば、都会じゃなくても
地元熊本で楽しく、かっこよく働くことができる。
熊本で好きを仕事にしている経営者に話を聞きました。



ヒントは
日常に潜んでいる！

オオクマ電子株式会社 代表取締役社長
大隈 恵治さん

熊本で新しいモノを作る—。そんな人と仕事をしたい

手術で使った薬剤の種類や数を自動識別して記録する「SPASER」、スマートフォンの液晶ディスプレイを検査する「液晶セル用信号発生装置」など、世界が認める電子機器を製造する「オオクマ電子」（熊本市東区）。代表取締役社長を務めるのが大隈恵治さん（46）です。

同社ではかつて受注生産が事業の柱でしたが、取引先の業況に左右されないビジネスモデルを構築しようと、将来性のある医療業界、携帯電話業界に向けた自社製品の開発に着手しました。元大手メーカーの技術者だった大隈さんは自ら医療機関に赴き、現場のニーズを調査。「手術後に出る大量の使用済み薬剤を、看護師が苦労して記録しているのを見て、自動化を考えました。しかし、実現への道のりは平坦ではなく、大隈さんは医療機関のごみ置き場に1年間も通うこと…。「SPASER」が完成したのは10年後のことです。

大隈さんは、現場での経験が、社員とのコミュニケーションにも役立っているといいます。「苦労や悩みに共感できるので、相談しやすいのでしょう」。また同社では、社員の起業を応援しようと、成長が見込める部門の分社化を推進。海外からも注目されている「液晶セル用信号発生装置」事業も分社化され、部門責任者が社長に就任しています。「熊本で新しいモノを作りたい、会社を起こしたい。そんな、思いが強い人と一緒に仕事がしたいですね」。モノづくりを目指す熊本の若者に期待を寄せます。



働くことを楽しむ。
「づらいいい」ことも含め
楽しいのが仕事だ。

地域を巻き込み チャレンジを続ける酒造り 大事なものは本気でハマれるかどうか

「ただただ、追い込まれていましたね」。そう当時を振り返るのは、1902年創業の「花の香酒造株式会社」（玉名郡和水町）の杜氏として陣頭指揮を執る神田清隆さん（42）。2011年、神田さんが6代目に就任したときは、売り上げが悪化し、行き詰まりが深刻でした。そんな時ふと目にしたのが、旭酒造（山口県岩国市）が造る日本屈指の日本酒「獺祭」の酒造りのドキュメンタリー番組。自社と似たような状況を乗り越えたという内容に、「これだ!」と確信した神田さんは、旭酒造に弟子入りを直談判。14年9月から職人たちと一緒に修業を積んだ後、仕込み法を変えるだけでなく、町内の米農家を説得して酒米「山田錦」の栽培を依頼。地域ぐるみで造られた純米酒「花の香」は大人気となり、日本を代表する酒に成長しました。さらに16年にはフラ

ンスを訪れ、シャンパンの製造方法を学んで商品開発に役立てるなど、チャレンジを続けています。

「成功には思いついたことを完成させるまで努力し続ける強い意志と信じる力が必要。努力を続ける原動力は、それが生涯をかけて`ハマれること、かどうか。いろんなことに挑戦して飛び込んで、本気でハマれる使命をつかんでください」とエールを送ります。



飛び込んで、
つかめ!

花の香酒造株式会社
神田 清隆さん



前のめりで、
コケてもいいじゃん

株式会社 **ciaimo** 代表取締役
崇城大学大学院工学研究科 応用生命科学専攻2年
古賀 碧さん

社長で学生。ふるさとと共に 進化できたらうれしい

あるときは、学生。またあるときは、社長。学生起業家として、大忙しの日々を送るのが、古賀碧さん（24）です。球磨郡あさぎり町出身の古賀さんは、人吉・球磨地域の焼酎製造元で廃棄される焼酎粕の有効利用法を大学で研究していました。すると、農作物の成長を促す光合成細菌の増殖に焼酎粕が役立つことを発見。焼酎粕を使って安価に光合成細菌を製造するキットを開発し、崇城大学の出資を受けて「ciamo」（熊本市西区）を仲間と設立しました。現在は、学業のかたわら、取引先である農家を視察したり、環境に優しい微生物由来の植物活力資材の大切さを高校生に伝える活動などに奔走しています。

入学してしばらくは、「自分が何をやりたいのか分からなかった」と古賀さん。いろんなことにアンテナを張り、興味を持ってそんなことに片っ端から挑戦したと

いいます。「これだと思うことを見つけたら、アクセル全開! 失敗は怖いけど、ビビっててもしょうがない。前のめりでコケたってそれも経験です」。根っこにあるのは、ふるさと人吉・球磨を元気にしたいという思い。「ふるさとと共に、自分も進化していけるとうれしい」と、キラキラした瞳で語ってくれました。

